

令和4年12月

NO.60

公立学校共済組合東北中央病院 地域医療連携室・入退院支援室

TEL 0120-703-995 FAX 0120-168-990 代表 TEL 023-623-5111

医療連携につきましては、日頃よりご協力いただき、誠にありがとうございます。

## ▷第25回和GO懇話会

令和4年11月30日(水) ホテルキャッスル山形で、「第25回和GO懇話会」を開催しました。新型コロナウイルス感染予防対策のため、参加者の皆様には消毒及びマスク着用のご協力をお願いし、会場内では座席間隔の確保と換気を徹底しての開催となりました。関係医療機関の先生方にご参集いただき有意義に開催されましたことに、厚く御礼申し上げます。

### 特別講演Ⅰ

#### 『知って得する？胃癌の外科治療』

演者：山形大学大学院 医学系研究科医学専攻外科学第一講座  
准教授 武者 宏昭 医師 (写真左)

座長：外科医長 川崎 修平 医師 (写真右)



胃癌は、癌の中でも男性の死亡率が2位、女性の死亡率が5位の病気です。胃癌手術については、2000年頃では開腹手術が8割以上を占めていましたが、2017年のデータでは腹腔鏡手術や内視鏡手術といった身体に負担の少ない手術が7割を超えるなど治療法の変化が見られています。また、最近では噴門部癌に対して胃全摘手術ではなく、噴門部切除術が増加しています。胃全摘手術に比べて、噴門部切除術を行った患者の方が体重減少が少ないこと、食事により摂取できるという大きなメリットがあります。

開腹手術または腹腔鏡手術、胃全摘手術または部分切除かといった手術の内容によって、入院期間の長さや体重減少の有無に差異が生まれるため、六君子湯等の薬剤を使用して食事摂取量を増やすことなどが術後は有効となります。講演では、手術内容がその後の身体管理に及ぼす影響や術後よりよい栄養状態を保つことの大切さについてなど、とても学びの多いお話をいただきました。

### 特別講演Ⅱ

#### 『新しい時代の胆道癌診療』

演者：東北大学大学院 消化器外科学  
教授 海野 倫明 先生 (写真左)

座長：外科部長 橋本 明彦 医師 (写真右)



胆道癌は、罹患者は少ないものの、5年生存率が低く死亡者数が多い病気です。患者の割合は東北地方が高く、西日本が低いことが分かっています。胆道癌の初期症状としては黄疸、腹痛や背部痛、発熱などがあり、黄疸が出ている場合はその症状が改善しなければ手術は難しく、手術前に胆道を広げるような治療が必須となります。以前は経皮経肝胆管ドレーナージ (PTCD) がその主流でしたが、最近では内視鏡を用いて胆道にカテーテルやステントを留置する方法 (ENBD・EBD・SEMS) が行われています。

胆道癌のうち、胆管の癌については胆管のどこに癌があるのか、胆嚢の癌についてはどの程度の深さまで癌が浸潤しているかを診断するなど、その診断内容に適した術式の選択を行うことが重要であり、適切な判断は死亡率の低下へつながります。また、手術と化学療法の併用が、現在の治療の主流となっています。化学療法の効果や手術内容については、日々さまざまな研究がなされており、今後の胆道癌治療のガイドラインが変わっていくことも考えられます。さらに、癌の遺伝子を調べる癌ゲノム医療が日本全国で行われており、新たな治療法の開発につながる可能性があることなど、今後の胆道癌治療の展望について大変貴重なお話をいただきました。

今後も地域医療の発展のため、先生方の御要望をお聞きしながら尚一層の努力を重ねて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

